

結核通信

介護職員の皆さまへ
これだけは知ってほしい結核のこと

結核は決して昔の病気ではなく、今もなお我が国最大の感染症であり、現在でも高齢者を中心に年間1万人の人が発症し約2000人が命を落としている病気です。保健所では、毎年結核や呼吸器感染症に関する普及啓発を行っています。

後期高齢者の結核に注意！

- 高齢者は結核のハイリスク者です。高齢者の罹患率が高い理由として、終戦直後の結核がまん延していた時代に生まれ育つ中で結核に感染し(潜在性結核感染)、加齢や基礎疾患の悪化等で発病するという背景があります。
- 豊岡健康福祉事務所管内の令和4年～6年の3年間の新登録結核患者24人のうちの7割以上が75歳以上の後期高齢者でした。
- 75歳以上の新登録結核患者の約7割が介護保険サービスを利用しており、その大半が居宅サービスを利用していました。

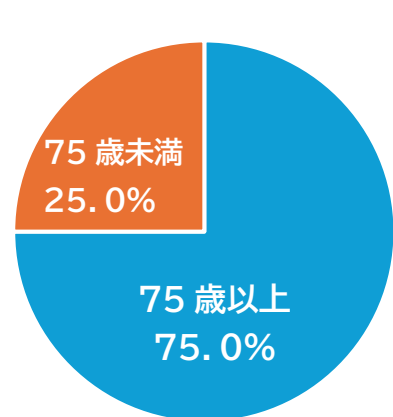


図1 令和4年～6年 年齢別新登録結核患者割合
(豊岡健康福祉事務所管内)

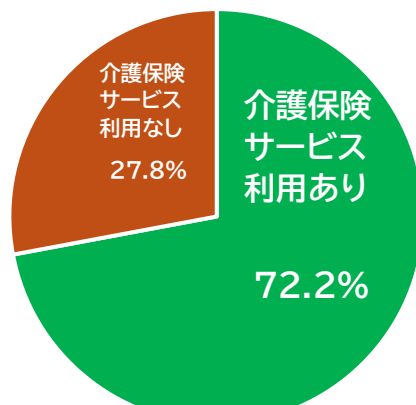


図2 令和4～6年 75歳以上の結核患者の介護保険利用状況
(豊岡健康福祉事務所管内)

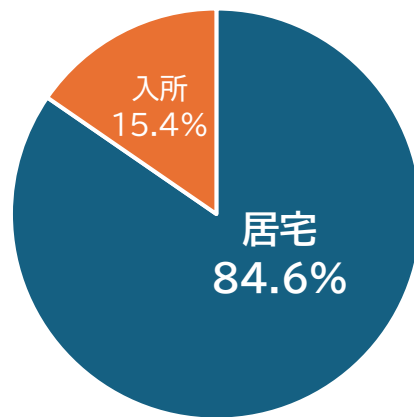


図3 令和4～6年 介護保険サービス利用者の利用サービスの内訳
(豊岡健康福祉事務所管内)

結核は早期発見が重要

○高齢者結核は、咳や痰などの典型的な症状が少ないため、日々の健康観察が大切です。

早期発見のポイント

- ① 利用者の印象…なんとなく元気がない、活気がない
- ② 全身状態…発熱(微熱)、体重減少、食欲がない、全身倦怠感
- ③ 呼吸器系の症状…咳、痰、胸痛、頻回呼吸、呼吸困難



保健所は結核の相談窓口です

- 保健所は、結核患者さんの服薬支援や治療のサポートを行います。
- サービス利用者さんが結核と診断された場合は、保健所が接触の状況に応じて接触者健診を行います。
また、治療中の患者について、保健所から介護職員の方へ服薬支援をお願いする場合がありますのでご協力をお願いします。

よくある質問

Q 結核について普段から利用者に対して気をつけておくことはありますか？

A 日々の健康観察、胸部レントゲン検査の実施をお願いします。

① 日々の健康観察

咳、痰、なんとなく元気がない、食欲不振がある、微熱が継続している、体重が減少しているといった症状が2週間以上続く場合は医師への相談や受診をすすめることが大切です。



② レントゲン検査

施設入所者→施設健診でレントゲン検査

在宅サービス利用者→定期健康診断やかかりつけ医で年1回はレントゲン検査
また、介護職員の方も検査を受けましょう。

Q サービス利用者さんが結核にかかった場合、治療や介護保険サービス利用はどうなりますか？

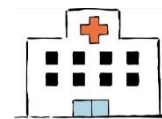
A 痰の中に結核菌がいる → 入院治療
痰の中に結核菌がない → 在宅治療

入院治療

痰の中に結核菌がある場合は入院して治療します。結核菌が陰性化し感染性がなくなれば退院できます。

サービス

結核治療中であっても、退院後は介護保険サービスを利用することができます。



在宅治療

原則、通院治療となります。通常6～9カ月の服薬治療を行います。

サービス

特別な対応は必要ありません。



介護職員の方へ

結核の通院治療中の方や、入院での治療を終えた方は、他の方に結核を感染させる心配はありません。サービスの継続利用にご協力お願いいたします。

結核についてのお問い合わせはこちら

豊岡健康福祉事務所(豊岡保健所) 健康管理課

〒668-0025 豊岡市幸町7-11 Tel:0796-26-3660 Fax:0796-24-4410